



# クローバー動物病院

## だより 第15号



今回は、ネコの肥満(ひまん)についてです。

# ネコの肥満(ひまん)

ネコの肥満は、食事を分割して食べる傾向にあったため、イヌよりは少ないといわれてきました。しかし、日本でも室内で飼育する家庭が増えているため、運動不足と飽食によりネコもイヌと同様な頻度で肥満になっています。

ネコの肥満はオスネコ、特に去勢オスに多く発生するといわれています。

## 1 ネコの肥満が引き起こす病気

### ①糖尿病

②肝臓病・脂肪肝：肥満ネコに絶食させると、**突然脂肪肝を発生する危険**があります。これはネコの必須アミノ酸であるアルギニン、カルニチンの欠乏または内分泌異常によって起きると考えられています。

肥満ネコが**急激に減量**し、2～3週間食欲がない場合にも突然発生することがありますが、これは、移動によるストレス、フードの変更によるストレスによって起きることがあります。

③下部尿路疾病 (F.L.U.T.D)：肥満ネコに発生が多い。

④手術時の危険性：手術時間の延長、麻酔のリスクの増大、手術後の治療の遅延などがあげられます。

### 3 体重減量の新たな選択肢

肥満の場合、これまでの療法食は、高繊維質・低脂肪の栄養組成で食事のカサを増やして満腹感を与えながら、摂取カロリーを低減することにより体重を減量させるという概念でつくられてきました。

新たに、ネコの代謝を変化させることで体重を減量させる療法食が開発されました。このフードは、炭水化物の摂取量を制限し、エネルギーの主たる供給源を炭水化物の燃焼から脂肪と蛋白質の燃焼に変化させることにより減量効果を導き出します。簡単にいうと、ヒトでいうインスリンダイエットですね。嗜好性は前者に比べ良いとされていますが、食事量は少ないため、食欲がすごいネコは物足りないと思われると思います。

※イヌに比べ、ネコは積極的に運動させるのが難しいため、どうしても食事制限が必要となります。糖尿病は一生管理が必要な重篤な病気ですので、予防のためにも、若いうちから、食事管理に気をつけてください。

## 2 エネルギー過剰ネコの栄養管理

ネコの肥満管理における療法食は以下のことを考えてつくっています。

- ① 想体重から算出した維持エネルギー量の65%を目安に制限した食事を与える。
- ② 適度に発酵する食物繊維を適度に与える。
- ③ 脂質は制限して与える。
- ④ ビタミン、ミネラル、アミノ酸のバランスのとれた食事を与える。
- ⑤ 嗜好性を損なわないように注意する。
- ⑥ 不飽和脂肪酸：n-6 脂肪酸と n-3 脂肪酸が適正比率（10：1~5：1）のものを与え、減量中のネコの健康な皮膚、被毛管理をする。
- ⑦ 糞便の処理に困らないように、糞便量を増やさない工夫をする。
- ⑧ 必要な蛋白質を確保しながら、脂肪の摂取量を減らすことができれば、高脂血症やリンパ管拡張症の管理にも役立つ。
- ⑨ カロリーを制限することにより、糖尿病の管理に役立つ。
- ⑩ 適度な発酵性繊維の給与により、便秘、大腸炎の管理に役立つ。

※ネコの肥満管理においては、まず動物病院で処方される療法食で目標の体重まで管理し、それ以降の維持のためには減量用の市販のフードが奨められています。